

DATA FILE



六方晶系

名前	CARNELIAN (カーネリアン) / 紅玉髓
化学組成	SiO ₂
色	オレンジ色～褐色
光沢	ガラス光沢、脂肪光沢
蛍光	青白色、黄緑色
条痕	白色
劈開	なし
断面	貝殻状
硬度	7
比重	2.6

べに ゑよく すい

紅玉髓

CARNELIAN

玉髓の一種でオレンジ色から褐色の色合いであられたものを紅玉髓という。

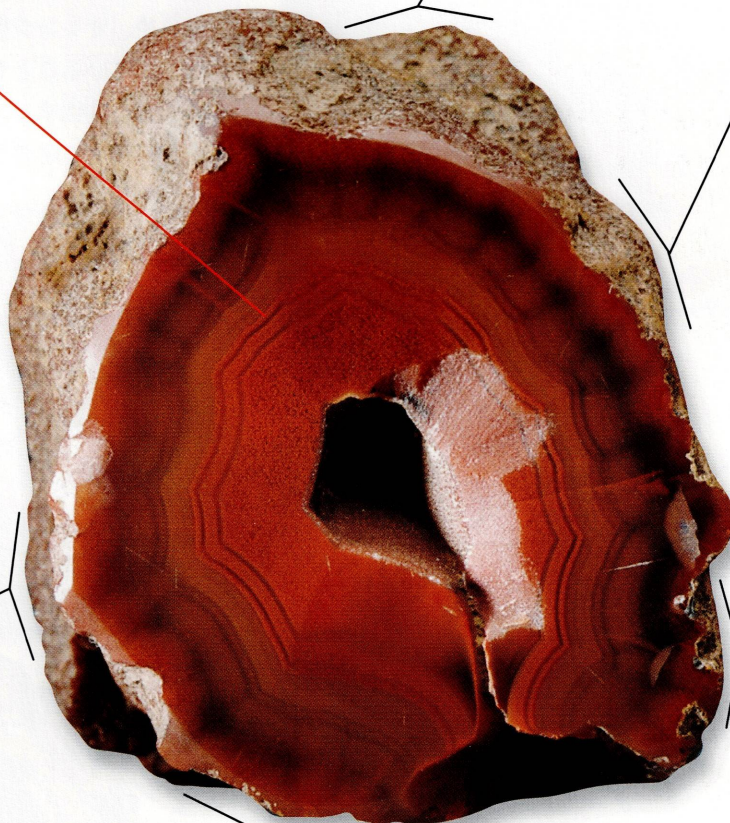
紅玉髓が見える
ノジュール（団塊）の断面。

ガラスに似た光沢
や脂肪のような光沢を持つ。

劈開はないが、ハンマーでたたくと貝殻状の断口を示す。

素焼きの陶板にこすりつけると白色の条痕が残る。

不透明のものが多く、内部に液滴が含まれているものもある。



酸化鉄を含む玉髄

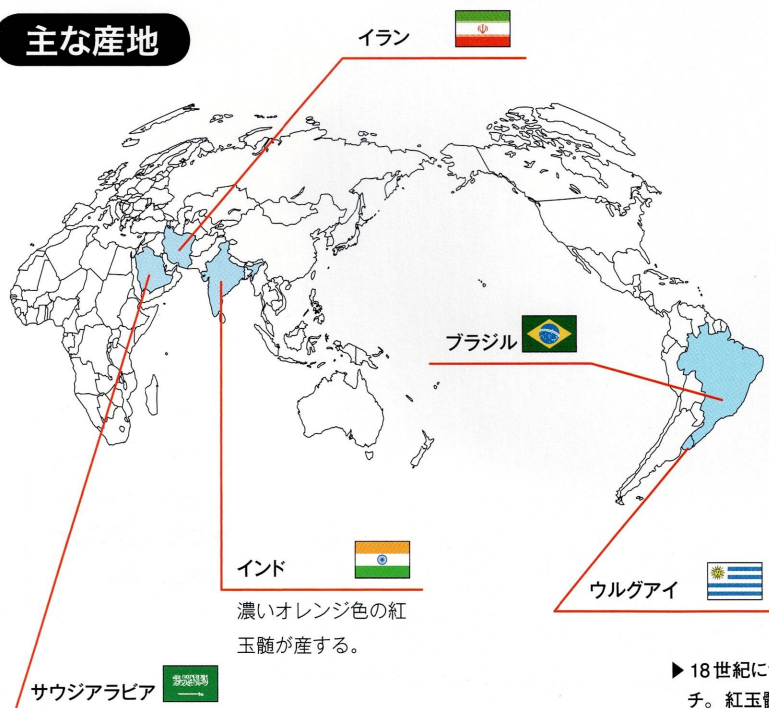
紅玉髄とは、石英の緻密な集合体である玉髄の一種で、副成分として酸化鉄を含むため全体がオレンジ色や褐色を帯びた色合いになったもののこと。酸化鉄が均一に分散しているため、むらのない色調のものが多いが、内部に複数の液滴が見られる場合もある。褐色の色みが強くなると「サード」、さらに濃い褐色になると「碧玉」と呼ばれて区別される。

二酸化ケイ素の豊富な熱水溶液が低温で固結した溶岩の空洞に生成する紅玉髄は、「ノジュール」と呼ばれる団塊で見られることが多いほか、乳房状の塊や、中心から外側に向かって放射線状になる鍾乳石に似た塊で産出。紫外線ランプを照射すると青白色の蛍光を示すのがふつうだが、インドで産する紅玉髄のなかには黄緑色を示すものもある。



▲紅玉髄でつくられたさまざまなアクセサリー。

主な産地



▼紅玉髄のノジュールの切断面。



耐久性のある宝石

劈開がない紅玉髄は、加工しやすいうえに耐久性もあるので、古代エジプト時代に加工されたものが現代まで残っている。現在も、模様を浮き彫りにしたカメオなどのアクセサリーに用いられ、装飾品として彫刻が施されることもあるが、着色ガラスからつくられた模造品や、オレンジ色に着色された玉髄が紅玉髄として流通していることも多い。これらは見た目では区別が難しく、判別するには酸化鉄が含まれているかどうか成分分析する必要がある。

ナポレオン家の印章

フランスの皇帝ナポレオン・ボナパルト（1769～1821年）は、「神にすがる奴隷アブラハム」という銘が刻まれた八角形の印章をお守りとして常に持ち歩いていたといわれる。この印章は紅玉髄からつくられたもので、ナポレオン家の護身符として義理の娘・オルタンスから甥のナポレオン3世へと受け継がれた。このエピソードから、パワーストーンの世界では、紅玉髄は勇気や勝負の石とされている。



▶ 18世紀につくられたブローチ。紅玉髄のまわりを金とトルコ石が取り囲んでいる。